Future From Fukushima.
ふくしまから
はじめよう。

AIZU IT AKI FORUM
会津ＩＴ秋フォーラム 2012

～ Revitalization from AIZU ～

日時：平成24年10月12日（金）
会場：会津大学

◆◆◆開催概要◆◆◆

■ 名　　称　「会津IT秋フォーラム2012」
～Revitalization from AIZU
平成２４年１０月１２日（金）

■ 開催日時　１０：００～１６：５０

■ 会　　場　会津大学講堂及び講義棟

■ 主　　催　公立大学法人会津大学

■ 協賛企業　アクセンチュア株式会社、株式会社エフコム、日本オラクル株式会社、オープンガバメントクラウド・コンソーシアム、会津オリンパス株式会社、タタ コンサルタンシー サービシズ ジャパン株式会社、株式会社東邦銀行、東日本電信電話株式会社福島支店、会津産学懇話会、会津信用金庫、公益財団法人会津地域教育・学術振興財団、株式会社会津ラボ、株式会社ＦＳＫ、ＫＶＨ株式会社、株式会社ＧＣｌｕｅ、株式会社住田光学ガラス、株式会社大東銀行、東北電力株式会社会津若松支社、会津商工信用組合、会津鉄道株式会社、株式会社シンク、株式会社Ｔ＆Ｉコミュニケーションズ、株式会社ナディス、株式会社東日本計算センター、福島コンピューターシステム株式会社、株式会社ブリスコラ

ポスターデザイン
会津大学短期大学部　近藤　薫さん

■ 後援機関　復興庁、東北経済産業局、東北総合通信局、福島県、福島県教育委員会、会津若松市、喜多方市、福島県市長会、福島県町村会、特定非営利活動法人超学際的研究機構、一般社団法人福島県情報産業協会、福島民報社、福島民友新聞社

■ 協　　力　株式会社富士通総研、日本電信電話株式会社未来ねっと研究所、経済産業省、東北経済産業局、アクセンチュア株式会社、株式会社豆蔵、公益財団法人福島県産業振興センター、日本オラクル株式会社、クアルコムジャパン株式会社、日本電気株式会社、株式会社gumi、グロービス・キャピタル・パートナーズ、情報科学芸術大学院大学、株式会社シンク、株式会社T&Iコミュニケーションズ、株式会社ノマド

■ 目　　的　会津大学を核として、会津の地から県内はもとより全国各地へ、 ITに関する情報発信をすることを目的として開催する。また、 ITに関する情報が発信されることにより、会津大学及び会津地域のIT産業が更に発展し、東日本大震災からの復興を支援することを目指す。

■ 事業概要　全国のITにかかわる企業人、研究者、学生などが一同に集い、基調講演及び特別講演、経済産業省施策紹介、3トラック9の分科会を通して、様々な角度からITの次世代について語り合い、交流を深める。

■ 来場者数　約６４０名〔公務員、教育関係者、会社員、自営業者等〕

■ 入 場 料　無料

◆◆◆基調講演◆◆◆　10：00-10：45

「「日本再生のシナリオ」
～ICTと多様性で価値創造経済へ～」

伊東　千秋　イトウ　チアキ

株式会社富士通総研
相談役

【講演要約】

日本経済は「やせ我慢」の状況にあります。勤労所得の低下、将来不安、消費低迷、デフレの継続、我慢の企業経営、これらが「負の連鎖」となっています。皆一生懸命頑張っているのに、なかなか価値を生み出せない。輸入品は高くなるが、輸出品は高くできず、結果として日本の国富が流出する状況が続いています。

この状況から脱却するために、現在のコストカット・低価格型ビジネスモデルというモデルから、「価値創造型」モデルへと転換する必要があります。価値創造型の経済へと向かうには、イノベーションが不可欠です。ダイバーシティ経営、ICT利用の深化により、人びとの知恵を活かし、新しい技術をうまく使うことで、今までになかった価値を創り出すことができます。

そして人々の心と知恵を集めて、先進的な課題解決をすることで世界をリードすることができるようになります。

◆◆◆特別講演◆◆◆　10：55-11：40

「新世代ネットワークと災害対応の新たな視点」

高原　厚　タカハラ　アツシ

日本電信電話株式会社未来ねっと研究所
所長

【講演要約】

社会基盤のなかで大きな役割を果たす情報通信ネットワークに対し、様々な機能の提供が期待されているなか、社会の要請にこたえるため、2006年から“新世代ネットワーク”に関する研究開発が進められてきました。この研究開発活動を通じて、様々なネットワークの構成手法、活用手法、また、新たなアプリケーションとの連携を行うための基盤的な技術の研究開発が行われています。

東日本大震災を契機として、ネットワーク・情報処理システムが危機的な状況に、より柔軟に対応することへの要請、クラウドやスマートフォンの進展によるネットワーク利用形態の急速な変化への対応という2つの事象がありました。これらの事象に対応するために、“新世代ネットワーク”の研究開発成果の早期の展開が期待されています。

ネットワーク仮想化による柔軟なネットワーキングの提供や災害時にローカルな通信機能及び外部との応急的な接続を可能にする移動式ICTユニットの開発等の技術を標準化することで、震災から学んだことを技術として世界に発信していきたいと考えています。

◆◆◆経済産業省施策紹介◆◆◆　11：50-12：10

「経済産業省におけるIT政策（融合新産業）について」

村田　正徳　ムラタ　マサノリ

経済産業省商務情報政策局情報経済課
係長

【講演要約】

現在、多種多様なデータが生成され、グローバルに流通する状況を迎える中、あらゆる分野で先進的なデータ活用の取り組みを進める企業からデータ活用型の事業がうまれつつあります。しかし、どのようにデータを既存のオペレーションに実装、あるいは付加し、新規事業やサービス創造につなげ競争優位を築いていくか、の方法論が未確立なのが現状です。こうした状況を踏まえ、経済産業省では、短期的な課題、事業創出に加え、中長期的な観点から制度やルール面からの議論・アクションも行う「IT融合フォーラム」を立ち上げており、これらの取り組みをご紹介いたします。

◆◆◆分科会１　復興事業トラック◆◆◆

Chair：会津大学事務局企画連携課
課長　**引地　敬**（ヒキチ　タカシ）

「研究開発拠点形成等による東北地域復興について」

井元　尚充（イモト　タカミツ）
経済産業省東北経済産業局地域経済部次世代産業室　総括係長
〒980-8403
宮城県仙台市青葉区本町3丁目3-１
TEL:022-221-4895　FAX:022-265-2349
URL:http://www.tohoku.meti.go.jp/

Session1
13：10-14：10

東日本大震災を受け、東北経済産業局では復興事業を鋭意推進しているところ。グループ補助金等に代表される復旧を中心とした事業についても今後とも継続して取り組んでいく所存。併せて、復興に資する新規事業の創出や企業を東北地域に呼び込むための仕組み作りとして、研究開発拠点形成事業も積極的に推進している。
今回の発表では、大学を中心とする研究開発拠点に係る当室の取組、ＩＴ融合新産業に係る拠点形成への期待などを中心に発表する。また、現状の被災地再建におけるスマートコミュニティ等の構想の状況とその課題、課題解決に向けた取組についても発表する。

「復興を成し遂げ、会津が成長してゆくための人材とは？」

中村　彰二朗　（ナカムラ　ショウジロウ）
アクセンチュア株式会社福島イノベーションセンター　センター長
〒965-0006
福島県会津若松市一箕町大字鶴賀字上居合134-5
URL:http://www.accenture.com/jp-ja/Pages/index.aspx

Session2
14：20-15：20

日本は戦後復興をいち早く成し遂げるために、中央の財閥系企業を中核に優秀な人材を首都圏に集め、効率性を最大化させ、その目的を達成させた。そして、新たな21世紀のネットワーク社会となった現在でも、その形を維持し続け、首都圏にすべてが集中する一極集中モデルとなっている。その中で東日本大震災は起きた。
この震災は、日本の早急な地域分散モデルへの移行の必要性を国民全体に示し、国家として取り組むテーマとなった。そして、ITは分散化を支える社会インフラとして、これまでにない大きな役割を担うことになる。
本セッションでは、その為に必要となる人材像や新たに生まれるサービス業務等を解説する。

「AIZUを日本のIT教育基地に～復興のための人材育成事業～」

羽生田　栄一　（ハニュウダ　エイイチ）
株式会社豆蔵　取締役CTO
〒163-0434
東京都新宿区西新宿二丁目1番1号 新宿三井ビルディング34階
URL:http://www.mamezou.com/

Session2
14：20-15：20

3.11を経た日本社会での未来への希望の大きな柱は、新たな礎石となる次世代の人材育成にあります。とくにITを適切に使いこなすことで、社会の課題への対応や新しいビジネスの創出を活発化できます。このスキルはグローバル人材育成にもつながります。現在、社会インフラとしてクラウドコンピューティングが普及を始めており、より安価に柔軟で高信頼なサービスシステムが作れる環境が整ってきました。このクラウドにより、迅速に社会やマーケットのニーズに合った新しいシステム構築・利用形態が容易に手に入ります。しかし、その実現には、従来よりも社会やマーケットという現場の目線でニーズとサービスをマッチングできる能力が求められます。そのような人材を会津大学のファシリティと新たな産学連携プロジェクト推進そして会津の地の利を生かして育てていければと考えています。

「再生可能エネルギーによる地域イノベーションの創出」

服部　靖弘　（ハットリ　ヤスヒロ）
公益財団法人福島県産業振興センター技術支援部　プロジェクトディレクター
〒963-0215
福島県郡山市待池台1丁目12番地(福島県ハイテクプラザ内)
TEL:024-959-1929　FAX:024-959-1889
URL:http://fukushima-techno.com/

Session3
15：30-16：30

本県は「再生可能エネルギー先駆けの地ふくしまイノベーション戦略推進地域」をテーマに、文部科学省の地域イノベーション戦略支援プログラム（東日本大震災復興支援型）の事業採択を受けた。本プログラムでは、本県に世界レベルの再生可能エネルギー研究拠点を整備し、先駆けの地として再生させることを目的に、再生可能エネルギー産業における広域的なイノベーションを創出していくため、当該分野の研究者の招へい・集積、産業人材の育成、地域ものづくり企業と大学とのネットワークを構築するコーディネート活動の取組を通じて関連分野での競争力の強化を図ることとしている。本フォーラムでは、プログラムに関わる県内大学等による研究開発の内容や人材育成の取り組み、本プログラムの背景にある本県の（新）エネルギービジョンなどについて紹介する。

◆◆◆分科会２　ITの最前線トラック◆◆◆

Chair：会津大学事務局企画連携課
副課長　**伊藤　賢一**（イトウ　ケンイチ）

「ビッグデータ時代 データセンターに求められる高効率コンピューティング環境と省エネIT基盤への取り組み」

藤田　勇治（フジタ　ユウジ）
日本オラクル株式会社システム事業統括ソリューション統括本部　Lead Architect
〒107-0061
東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター
URL: http://www.oracle.co.jp

Session1
13：10-14：10

従来の定型化されたデータ処理とは異なる特性が求められるビッグデータ時代のデータセンターIT基盤。その効率的な姿とはどの様なものでしょうか。Data Centerに求められる理想的な姿を再確認した後に、ビッグデータ処理系に焦点を当てた内容を御紹介させて頂きます。

膨大かつ多様なデータソースを迅速に取得・連続高速処理し、既存のデータと共に高度分析する事で今までに無い分析結果と隠れた関係性を導き出すビッグデータ処理システム。構築する際、是非とも押さえておきたいポイントを御紹介させて頂きます。

「クラウド化するサービスとモバイルの今後について」

山田　純（ヤマダ　ジュン）
クアルコムジャパン株式会社　特別顧問
〒107-0062
東京都港区南青山1-1-1　新青山ビル西館18F
TEL：03-5412-8900　FAX：03-5412-8956
URL：http://www.qualcomm.co.jp/

Session2
14：20-15：20

潤沢なコンピュータ資源を安価に利用できるようになったことから、多くのサービスがクラウド上に構築されるようになってきた。モバイル向けのサービスも例外ではない。

特にモバイル向けにクラウドが活用される理由として、

1) 異なる種類の端末に対して、クラウド上のコンテンツをシームレスに提供できる
2) スマホを端末とし、SNS連携やクラウドソーシング（Crowd Sourcing）が容易である
3) クラウドによるデータ処理を前提とする、M2MやIoT（Internet of Things）が勃興している

などが挙げられる。

上記それぞれの例を示しながら、モバイルの今後について考察の一端を示す。

「 M2Mで広がるビッグデータの世界　～M2M・ビッグデータ関連技術の最新動向とNECの取り組みについて～」

峯下　聡志（ミネシタ　サトシ）
日本電気株式会社プラットフォームマーケティング戦略本部　主任
〒108-8425
東京都港区芝5-33-1 森永プラザビル
URL:http://www.nec.cp.jp/solution/bigdata/

Session3
15：30-16：30

M2Mは、実社会で収集されていなかった潜在的データを収集する役割を持っています。そのM2Mとビッグデータを連携させることで、スマートな社会・ビジネスを実現するシステムが構築されます。

本講演では、M2Mからビッグデータを収集・管理・分析するための課題を洗い出し、課題に対するNECの製品やソリューション、およびそれらを支える先進技術についてご紹介します。

◆◆◆分科会3　モバイルソリューションの今トラック◆◆◆

Chair：株式会社GClue
代表取締役　**佐々木　陽**（ササキ　アキラ）

「日本から世界へ　モバイル業界の未来」

國光　宏尚（クニミツ　ヒロナオ）
株式会社gumi　代表取締役社長
〒160-0023
東京都新宿区西新宿4-34-7 住友不動産西新宿ビル5号館3階
URL:http://gu3.co.jp/

Session1
13：10-14：10

日本企業が世界のモバイル市場で通用するか、という問いに答えるまでもなく、すでに日本企業はモバイルのグローバル市場の主役となっている。
iOSやAndroidのランキングでは日本企業のゲームが上位を占めるようになってきており、また、時価総額や、ARPUなど数値の面で見ても日本企業の優位性が明らかである。
北米の大手IT企業のモバイル対応が遅れる中、国内市場で切磋琢磨してきた日本企業が世界を獲る今までにないチャンスが到来している。
「失われた20年」がいまだに継続している日本経済の中において、「強い輸出産業」が絶対に必要であり、モバイルインターネット市場は間違いなくその中でも重要、かつこれほど可能性のある業界はそう多くはない。
これからの日本を背負って立つ若者達が世界へ挑戦する際に、目指す新しい目標となるべく、「今、我々がやらねば誰がやる」という気持ちで戦っているgumiという会社と、この業界の現状について、お話しします。

「日本発世界へ！モバイルベンチャーの成功の秘訣」

高宮　慎一（タカミヤ　シンイチ）
グロービス・キャピタル・パートナーズ　パートナー
〒102-0084
東京都千代田区二番町5-1 住友不動産麹町ビル 5F
http://www.globiscapital.co.jp

Session2
14：20-15：20

モバイルは日本が世界に優位性を誇る領域です。ベンチャーキャピタルとしてモバイル領域のベンチャーの育成に数多く関わる講演者が、モバイルにおける最新のトレンドを紐解きながら、日本のモバイルベンチャーが世界に羽ばたくための成功の秘訣を探ります。

「オープンソースハードウェアを活用したプロトタイピング」

小林　茂（コバヤシ　シゲル）
情報科学芸術大学院大学　准教授
〒503-0014
岐阜県大垣市領家町3-95
http://www.iamas.ac.jp/J/index.html

Session3
15：30-16：30

オープンソースソフトウェアの考え方をハードウェアにも展開したオープンソースハードウェアを活用することで、ハードウェア製品や、それを中心としたサービスのプロトタイプ制作に気軽に取り組むことができるようになりつつあります。この講演では、3G、Bluetooth、Low Energy、放射線センサなどに関するオープンソースハードウェアの実例を紹介します。
また、ソフトウェアと異なるハードウェアならではの問題点についても、いくつかの事例を元に紹介します。

◆◆◆写真レポート◆◆◆

主催者あいさつ　角山　茂章　学長

分科会１－１　井元　尚充　氏

分科会１－２　中村　彰二朗　氏

分科会１－２　羽生田　栄一　氏

分科会１－３　服部　靖弘　氏

分科会２－１　藤田　勇治　氏

分科会２－２　山田　純　氏

分科会２－３　峯下　聡志　氏

分科会３－１　國光　宏尚　氏

分科会３－２　高宮　慎一　氏

分科会３－３　小林　茂　氏

会津大学発ベンチャーの展示

◆◆◆おわりに◆◆◆

本フォーラムは、平成１９年度より、会津の地から全国へ、そして世界へITの情報を発信し、ITの先進地を目指すという目標を掲げ、開催してまいりました。

６年目を迎える今年は、「Revitalization from AIZU」をテーマとして掲げ、震災からの復興を目指すことを目的に開催いたしました。フォーラムでは復興に関する講演のほか、ITに関する最新の話題について講演が行われ、多くの方々に御興味を持っていただき、６４０名の方々に御来場いただきました。

講師の方々を始め、本フォーラムの開催に御協力いただきました皆様方に対し、深く敬意と感謝の意を表しますとともに、会津地域が今後の日本、さらには世界をリードするITの先進地となりますよう努めてまいりますので、今後とも御支援、御協力をお願い申し上げます。

会津大学

会津IT秋フォーラム2012実施報告書

〒965-8580
会津若松市一箕町鶴賀字上居合90番地
公立大学法人会津大学
電話:0242-37-2511
F A X:0242-37-2546
URL: http://www.ubic-u-aizu.jp/it-forum/